

教育の基礎的理解に関する科目等

「教育の課程と方法」の評価と改善

教育臨床・富田英司

授業情報

授業名：教育の課程と方法

開講時期：令和3年前学期

時間割番号：120133

対象学生：初等・特支

担当：富田英司

受講者数：131名

DP対応調査回答者数：92名

授業概要

この報告書では、数年間に渡って、「教育の課程と方法」という授業を対象に継続的に検討をおこなってきた。今年度は、課題として、これまでも複数年度に渡って学生から要望としてあった「授業実践例を示すための動画教材を増やす」という点と、知識の詰め込みすぎに留意するという点の2点に気をつけて実践した。

教育課程は教育の目的に応じて諸活動を配置する計画のことであり、教育方法は学習内容を教える方法に関するものである。この授業では理論と関連づけながら具体的な教え方と実際の方法を学ぶ。今回の報告では、昨年度に引き続き、この授業の評価と改善についてまとめた。

特にこの授業で育成を狙ったディプロマポリシーの項目としては、これまでと同じく「思考・判断・表現」（教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる）を想定した。

DP対応調査の結果

① 評定値

DP1-4の項目に沿った授業かどうかに関する受講生の評定は以下の表に示すとおりであった。なお、評定値の凡例は1：とても思う、2：ある程度思う、3：あまりそう思わない、4：授業の目標・内容がこのDPとは無関係である、であった。この表には、「教育の課程と方法」の4年間に渡るDP調査の結果の変遷が分かるようにしてある。

DP1 知識・理解については、「1：とても思う」と判断する学生が、昨年は26%から56%へおよそ2倍伸びたものの、今年は22%へと下がっている。このことは、昨年度学生から知識量が多すぎるという指摘を受けて、その量を減らしたことの反映であるかもしれない。

DP2 技能については、「1：とても思う」と判断する学生の割合において、昨年度の27%から、今年度の15%へとかなり下がった。

DP3 思考・判断・表現については、「1：とても思う」と判断する学生の割合が過去25%から48%へとおよそ2倍伸びてきたが、今年度は当初の水準に戻り、23%となった。

最後に、DP4 態度については、「1：とても思う」と判断する学生の割合が昨年度まで50%へとおよそ1.5倍伸びてきたのに対して、今年度において24%に下がっている。

② 時間外学習等の状況

以下には、時間外学習時間等に関する4年間の変遷が示されている。今年度は特に大きく改善した項目はない。

- 時間外学習(課題): 週平均 1.03 時間 (R2: 1.3 時間, R1: 1.5 時間, H30: 1.2 時間)
- 時間外学習(課題外): 週平均 0.32 時間

(R2: 0.5 時間, R1: 0.8 時間, H30: 0.3 時間)

- 自主的に読んだ文献数: 週平均 0.6 点 (R2: 1.0, R1: 0.3 点, H30: 0.4 点)
- 授業をきっかけとした活動: 平均 0.2 点 (R2: 0.2 個, R1: 0.1 個, H30: 0.1 個)

表 「教育の課程と方法」の3年間に渡るDP調査の結果

評定	DP1:知識理解				DP2:技能				DP3:思考判断表現				DP4:興味関心意欲			
	H30	R元	R2	R3	H30	R元	R2	R3	H30	R元	R2	R3	H30	R元	R2	R3
1	34 (26%)	46 (42%)	73 (56%)	20 (22%)	31 (23%)	32 (29%)	36 (27%)	14 (15%)	33 (25%)	35 (32%)	63 (48%)	21 (23%)	42 (32%)	36 (33%)	66 (50%)	22 (24%)
2	87 (66%)	60 (55%)	56 (43%)	68 (74%)	84 (64%)	64 (58%)	85 (65%)	69 (75%)	89 (67%)	72 (65%)	65 (50%)	65 (71%)	80 (60%)	65 (59%)	62 (47%)	65 (71%)
3	11 (8%)	4 (4%)	1 (1%)	4 (4%)	16 (12%)	13 (12%)	9 (7%)	8 (9%)	9 (7%)	3 (3%)	2 (2%)	6 (7%)	9 (7%)	8 (7%)	3 (2%)	5 (5%)
4	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)

③ 自由記述

今年度の調査フォームには、自由記述欄にて、今後の授業改善のための意見を求めている。次年度の調査ではその項目を含めるようにしたい。

来年度に向けた授業改善について

今年度は、昨年度まで改善してきた評定値が多く項目において元に戻ったことから、改善というよりも改悪してしまった可能性が考えられる。他方では、「2:ある程度そう思う」と回答した学生は多いことから考えると、この授業がどの項目においても特筆するほどのインパクトを学生にもたらししていないのかもしれない。

来年度は、授業の質とDP評定の関係について推論するための質問項目を付け足したいと考えている。

また、授業内容の大きな変更として、来年度は逆向き設計に関する入門書を教科書として指定し、逆向き設計の理論に沿った学習指導案の検討を取り込みたいと考えている。